

みうらトーク & トーク 2009 年度第 4 回

日 時 平成 21 年 12 月 18 日 (金)
19 時 45 分から 20 時 45 分
参加者 一般応募者 7 名、市側 5 名
テーマ 「三浦市史について」



<意見交換>

事務局 本日は皆様初顔合わせの方が多いと思いますので、簡単にお名前と今日ご参加いただいた動機を自己紹介していただけますでしょうか。

市民 現在東京の短大で日本史を教えております。農業史に興味がありまして、資料を見ていたら初声のことがチラホラと資料に出ていて、初声の農村を回ってみたいなと思いました。そういう場合は市史編さん室というところに連絡を入れて資料を見せてくださいとお願いするんですが、市史編さんをまだなさっていないと伺いました。それで、とにかく市役所に電話をしたら協働推進課に繋いでいただいて、「今日こういう会があるから参加してはどうか」と提案されたので参加させていただきました。

市民 市史編さん準備委員の 1 人です。準備委員は今 4 人でやっていて、色んな意見を交換してより具体化させていくということなんですが、4 人ではなく、皆さんの意見を聞きながら、自分なりにまたまとめたいなと思えます。よろしくお願いします。

市民 ずっと初声に住んでいます。色んな人に出会ったり、色んな建物があったり、歴史があったり、そういうのを見ているととても楽しく、歴史に興味を持つようになったので、今日は参加しました。よろしくお願いします。

市民 油壺から来ました。三浦市の歌を残してもらいたいと思って過去に何度か市役所に通ったことがあります。せっかく良い歌がたくさんあるから、なくなっちゃっ

たらもったいないなあと思って、それをどうにか今回のような会で盛り上げてもらいたいなと思いました。

市民 新聞記者です。今日は取材というよりも、三浦市史がどういう形でこれから作られていくのか。それに一般市民の方が市史にどういうスタンスで取り組んでいけばいいのか、それに非常に興味があります。取材が3割、自分の意見が7割くらいになればいいかなと思っております。よろしくお願いします。

市民 初声から来ました。代々農業をしています。三浦市史にやがては役に立つと思うんですが、教員をしていた弟が横浜の青少年センターの隣の文化資料館という施設があって、私もそこで研究しているうちにその先生方と親しくなって、三浦市内の古文書の調査をして、かなり拾い出して、それを県の公文書館の先生方のお伴でお手伝いをして、蔵から出して、日に干して、埃を払って、一点一点解説して、これはいつ誰がどういう目的で書いたのかということのを袋に表題を書いて詰める仕事をしました。12、3年経って、酸性の紙の袋だと保存性に問題があるということで中性の袋に詰め替えをすることなどの手伝いをしたことがあります。三浦市は手元にある資料を見ると『目で見ると三浦市史』の続編という色が強いのかなという気がしたんですが、どういう風になっていくのか分かりませんが、お手伝いできることがあればしたいと思い、参加しました。

事務局 ありがとうございます。それではここで、市史編さん事業について協働推進課から説明をさせていただきます。

職員 まず、三浦市の行政における市史編さん事業の位置づけをご説明します。三浦市の第4次総合計画、三浦未来プラン21と申しますが、まちづくりの目標として、3つの柱を掲げています。そのうちの1つ、それが一体感のあるまちを目指してということになっています。市史編さん事業は、まさにその一体感のある都市を目指す上で中核となる事業と認識しています。歴史や文化の変遷を共有する中で郷土愛、こういったものを未来へ、後世へ伝えていくことが何よりも重要であるということのもとで、すべての市民の方がそういう意識のもとでまちづくりを進める、そういう理想を柱としております。

三浦市では、昭和49年に『目で見ると三浦市史』、写真を主にした本を発刊してございます。それが昭和59年に第4版を作ってから、補完されていない状況が続いています。それで平成24年度を目途に三浦市史編さん準備委員会を発足させていただいて、その中で『目で見ると三浦市史』を作っていこうということになっています。今日お集りいただいた皆さんには色んな意見を出していただいて、編

集作業に役立てていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

次に、資料に「課題」とありますが、大きく分けると2つあります。1つは既存の『目で見える三浦市史』、その追加・編集を1つの大きな括りにしています。もう1つは、『目で見える三浦市史』にも関連し、また今後にも繋がっていくということで、歴史的な資料の収集、集めたらどう保管していくのか、そういう在り方の検討も今後やっていかなければならない課題と認識しています。

今後『目で見える三浦市史』を編集・補記していくという中で、今年度、その立ち上げの年になっております、今後何年かの中で作っていききたいと思っておりますので、皆様のご意見を参考にさせていただければと思っております。

事務局 それでは、これらの情報を踏まえた上で、トークを始めていただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

市長 現状では、三浦市史をいかに残すかっていう大きなテーマがあります。それについて市として限られた財源の中で立派な書籍にして費用をかけてやるという選択がありますが、現在三浦市の歴史として出させていただいている『目で見える三浦市史』という書籍が、実は25年間手つかずの状態だったんです。これではやっぱり問題があるだろうと。個々の毎年の事案というのはある程度まとめることができるものですから、それはそれで、現状では『目で見える三浦市史』をバージョンアップして25年間まとめられていなかった部分を含めて、今の世代の方たちの考えとか、世相を考えると、視覚に訴える、写真があつて、説明があつて、それに対する歴史が分かるような形で、新しい『目で見える三浦市史』という形で新たなものに作り替えようというのが、市の内部で協議した結果です。

実際にそれについて、ここ数年の間に新聞の記事や、歴史的な書物をひっかき集めているところです。それをこれから整理して、まとめていこうということで、やはり色々な視点が必要なので、編さん準備委員の方たちをお願いして、これからまとめ上げていこうということで準備をさせていただいております。

三浦市の歴史をたどっていくと、色んな歴史のパターンがありますね。各地区の歴史もあります。例えば農業の歴史、漁業の歴史、各地域の郷土の歴史などです。そこまで掘り下げていくと、相当なパワーが必要になります。Tさんは市史の古い書類などをたくさんお持ちでいらっしゃいますね。これから一番お力になっていただきたい方のお一人ですが、そういったものをどうやってまとめていくかというのが今の我々に求められていることです。

それを我々自身ではなくて、外部に委託して専門的に研究してもらってまとめあげてもらおうという手段もありますが、それだとお金もかかりますし、ちょっと厳しいという状況もあるので、どういった視点でどういう風にまとめていくかとい

うことも含めて今後検討していく必要があります。例えば港の歴史など、三浦市の特性からして、どのように、どこにスポットを当てていったらいいかというのも悩みの種の一つなんですね。Yさん、ご経験も含めてお話をいただければありがたいのですが。

市民 その前にひとつ質問があります。この『目で見える三浦市史』の続編というのは、その「後」の時代の写真集を作るのか、それとも全部作り直すという感じで補充をしながら古代から現代までを作るのでしょうか。

市長 今考えているのは、補完されていない部分を補完しながら、併せてそれ以降のものも新たに作り上げていこうということです。

市民 重点としては新しいものに重点を置くということですね。

市長 そうですね。新たな発見等、ここに記載されていないものもありますので、そういったものも含めてやっていこうと思っています。

市民 私は今まで横浜市、藤沢市、大磯町と御殿場市の方で編さんにかかわってきました。藤沢での経験で言うと、藤沢は大正時代以降の藤沢市史を作り直すということで『続・藤沢市史』というのを作っています。市史編さん委員をやっていたときに作ったものを今日持って来たんですが、市制60周年記念という本があります。これと、新聞記事を使って1年1年の新聞記事と写真を載っけながら解説をしていって、藤沢と世界や日本の状況がどう関係しているのかということをも市民の皆さんに分かっていただくというような本を作りました。藤沢も農業地帯があり、漁村があり、鵜沼という富裕者の住む地域があります。地域によって産業が決まってくるんです。例えば北部は農村地帯で、後からいすゞの工場が入ってきた。江ノ島から鵜沼にかけての漁業地帯もある。それと市街地の商店街があるという感じで、地域と職業というのが、結構相関関係にあります。地域を選ぶことで職業が自ずと決まってきます。そこで、座談会をやったり、その人たちから聞き取りをしたりしました。また、市民の皆さんに、自分が藤沢で生きてきてこうだったという経験や職業の経験、地域の経験等、何でもいいですから書いてくださいと、広報に作文の依頼を掲載して作文をしてもらい、その中から選考させていただいてまとめたりもしました。そうすると地域的にも不公平がなく、新住民、旧住民にも不公平がなく、職業的にも不公平がないものができると思っています。

あとあちらの新聞記事の修正ですが、たとえば昭和5年、昭和恐慌が起こります。

今の不景気のようなものです。その年の新聞記事を集めてきて、たとえば行事でおむすびをもらう行列ができていたといった記事があります。その新聞記事をポンと載せて、関連する写真などをいくつも載せて、それで編さん委員が、昭和恐慌というのがどういうものだったのか、日本が世界の中でどういう位置にあって、その昭和恐慌が藤沢の歴史とどう関係しているのかというような、藤沢市民の生き方と日本や世界をつなげていくような、そんな本にしたつもりです。先ほど市長がおっしゃったように、なるべくビジュアル的でないと読んでくださいませんので、なるべく写真を見開きで入れていくという形にして作りました。なので編さん委員はその記事の解説や統計や年表を作るだけです。残りは新聞の記事を半分くらい載せています。そうすると編さん委員が全部書くというような大仕事にはなりません。

こちらの書籍はもっと簡単で、市民の皆さんに作ってもらったという感じです。財政的にも市民の皆さんには粗品を差し上げるというだけで、あとは編さん委員が選んだり、扉の簡単な歴史を書いたりという作業でした。つまり、こちらは市民参加型、あちらは新聞記事に頼ったビジュアル型といえます。

市長 隣の方はいかがですか。

市民 私は、過去に横浜から引っ越してきて、『目で見える三浦市史』を見て、写真がたくさん載っていてすごく良い本だと思いました。歴史がわかりやすかったのですぐ本を買ったんですけど。こういうものが大事だなと思いますし、時代にそって新しいものっていうのも大事だと思います。市民の生きてきたものというのを本にするということも素晴らしいと思います。それと三崎港報の昔の記事を見るとすごく良いですね。だから新聞を元にしてというのもとても良い案だと思います。

市長 隣の方はいかがですか。

市民 私も古いものを集めていたりするのですが、なくなっちゃったりもしたので、早いところどうにかしてほしいなという気持ちです。

市長 隣の方はいかがですか。

市民 私は、自分の住んでいる、江戸時代でいう下宮田村、そこに的を絞って、南下浦や三崎については関係しているところは拾い出しましたが、それ以外は下宮田に絞ってやって資料の収集などを行っています。

それから北原白秋の本を図書館から借りて全部読んで、作品の中の野菜なんかを全部拾い出したんです。

古いものだと和田義盛等の歴史上の有名な人物が出てきますが、国宝や重文の 8 割位が集まっているといわれる瀬戸内海の大三島のお宮さんに、関わりのある人物の宝物があるかと思って宝物館を調べたら和田義盛の箆（えびら）がありました。矢を入れて背負うものです。その一点を見たとき、800 年からの三浦の人物の遺品がここにあって見られて良かったなと思いましたね。あれなんてそれこそ写真で載せるなら一級の資料だと思います。

それから県の花のヤマユリも、私が高校のとき、県の花を選定するのに投票してくれなんて言われてハガキをもらったんですが、ヤマユリが選ばれました。そのヤマユリについて 30 年位前に何かの本の中で九州の大分県に滝廉太郎の「ふるさと」ですけど、あそこには江戸時代参勤交代で東海道を通ったときに水戸の岡藩の殿様が箱根からユリの球根を持って行って向こうに植えたらいっぱい増えて大分県の竹田市市の市の花に指定されているなんていうことを本で知りました。3 年位前に訪ねて行って調べたら数が少なかったり有名になったら盗掘されちゃって一生懸命保護しているんだなんて言われてられましたけど、そんなことで細く自分の村にかかわりのあるものや、大ざっぱなそんなのを調べたりはやっていきます。

和田義盛の奉納した箆は良い収穫だったと思います。貴重な資料ですね。

市民 通り矢も埋め立てをしましたね。私も貝殻拾いに行きました。それから白秋の碑ができたところに浜から泳いで除幕式にも行きました。ああいうのを載せてくれたらいいなと思います。

市民 市長、例えばこの『目で見ると三浦市史』を作るにあたっては膨大な資料を集めて膨大な時間がかかって、膨大な金がかかっていますよね。これは要するに資料の中から選択をして、いらぬものは排除するしかないのです。それを仮にやったとすると、古いのに遡ると恐らく（平成）24 年は無理ですよ。10 年スパンで考えないと。だから資料は資料として保存するんだけど、この 24 年というスパンをメインにすると、この 25 年間の記録、それがメインにならないと恐らくこの期間では無理ですよ。

市長 一応その『目で見ると三浦市史』のバージョンで、目を見てそれに解説がついてというものになると思います。そうすると資料が膨大な量集まって、そこからピックアップするという作業が必要になると思います。昭和 59 年に最終版になっていますけど、それ以前を補記していくようなことはやっぱり必要なんですよ。そ

の最初に作った本に対して、記事を入れ替えたりといったような作業が必要になると思います。例えば資料の集め方なんていうことは、地元紙のデータをやはり大変頼りにしています。その新聞記事をベースにしたり、一般紙等もそうですが。その中で資料の加筆もしないといけませんし、どれをピックアップしていくかということも、これから編さん委員の方に研究していただきます。藤沢でやった例というのは市民の皆さんに依頼をしてまとめたものですよね。この編集は市でやったのですか。

市民 編さん委員は、ピックアップをしたり、座談会の座長になったり、扉の文章を書いたり、写真の選択をしたりということをしました。

藤沢は文書館があります。市町村単位ではさきがけとなったものです。行政資料を保管するのと同時に、現在の藤沢市史は2回目ですが、前の藤沢市史、第1回目の藤沢市史のときに歴史的資料を色んなものをかなり集めていますので、近代までの資料は豊富にあるんです。写真などもかなり持っていますから、使いたい放題という感じでした。

先ほども仰っていたのですが、新しいこういうものを作るには、やっぱり時間がかかりかかると思います。キャプションを書くということは、その背景を知らなくてはいけないので、現代史をかなり勉強して、キャプションを作っていくのもかなり時間がかかると思います。写真の方は新聞社さんの方で撮った写真でしたらウラを取らなくてもこれは何の写真とわかりますけど、一般の皆さんから集めた場合は、その写真が本当にそのお宅の方が言っている写真かというウラを取らなくてはいけないし、肖像権の問題も出てくるだろうし、かなりの作業になるんじゃないかなという感じはしますね。

市長 Iさん、現実的に一般の人から写真を頂いてそれを確認するというのは、作業としては厳しいですね。

市民 地域でも1枚写真を見せられて、「これいつ頃？」と聞かれることがあるんですが、全然分からないですね。海外の海岸^{かいと}なんだけど。昔の原っぱで松があって、その松はいつ頃あったのかという辺りからやっていかないと、私も全然わかりません。なので、委員会の方では資料をまだ具体化していませんけど、土地の古い人に聞いて、市民の皆さんに資料をご提供願うという場面もあるかなという話はしています。

さきほど出てきた藤沢とはやっぱり違うんですね。素晴らしい出版物等を素晴らしいと思って図書館に行っても無いんです。例えば『遠い日のふるさと』についても。初声の図書館が図書館としては一番良いと思うんだけど、図書館の個性、

個性のある図書館といますか。江戸時代とかそういうことは抜きにして、ごく最近の本でも、三浦に関することはこの図書館にあるんだというそういうもの、文書館ですか、そういうものが無いからです。

全部は無理だと思うから、例えば白秋のことについては白秋記念館とかね、そういうようなところが必要です。『遠い日のふるさと』自体も図書館でちゃんと見られない。漁労長の話や魚問屋の歴史とか、そういう本も出ているわけですけど、ここ行ったらちゃんと見られるという図書館がないんです。そういうことが市史編さん以前の問題です。出発点は、現在を記録するということがやっぱり大事で、ちゃんと遡って行けるかということが今の問題としてあります。「三浦市民」にしても1巻目からどこに行ったら見られるのかということですね。

市長

新聞は日付も記事も載っているんで、ベースは新聞記事から辿っていくことになると思います。三浦市でその時なにか起こっていたのかということの記録を辿って。

市史を編さんするというのも大きな仕事なんですけど、資料をどう残していくのかということも今我々に与えられている課題なんですね。他市のようにお金があって、きちんとした書庫とか保管庫というものが出来ればいいんですが、三浦市では現実的に難しいので市役所の一部を使ったりということになると思います。だから、市史編さんの作業に加えて、編さんするための資料をきちんと残していかななくてはいけないということを並行してやるつもりでいます。

ただ、やはり我々の考えているのは写真といわゆる解説というようなことが、今の時代、文章を並べるよりも目で見ていった方が良いというのは普通の考え方ですよね。中にはきちんと書籍に残して立派で分厚い本にした方が良いという方もいらっしゃるんですが。歴史としてきちんと本に残さなきゃいけないと。私は写真で記録が流れが分かるのが一番良いかなという風に思っています。それは市民の皆さんが見てもそうだなって思ってもらえますよね。そんなこと聞くのはおかしですけど。

市民

我々物書きの商売やっていますが、文章というのは意外と忘れるんです。ところが目で見ると写真や映像というのはどっかで残っているんです。残像があるんですね。文章というのは目よりも頭で考えちゃうのですぐ忘れちゃうんです。だからこういう方が読んでいて疲れないですね。写真が多いので。ただこの本にも出ているけど、例えばビキニの水爆の反対集会は日にちが確定しているけど、大ざっぱな写真というのはかなり年代特定が難しいですよ。まして昔は写真がそんなにポピュラーではないので、限定されるだろうと思いますし。この『目で見ると三浦市史』も写真の収集で相当苦労しているはずですよ。

市民 市史の形として、何冊にもなるような市史と、そういうものを作る合間に別冊という形で写真集とか年表とか作るものがありますね。市史のために資料を集めたところで、その副産物として写真などがたくさん集まって、写真集ができるなどというタイミングで写真集を作ることが多いんです。そういう市民に対してわかりやすい写真集というのは非常に好評だし、すごく意義深いことだと思います。私も引っ越したばかりで、例えばここに引っ越してきたときにパッと写真を見たほうがわかりやすいし、市民の皆さんにとってはとっつきやすい。ただ、正史として三浦市の歴史というものがきちんとあると、学校の授業で使えます。噛み砕いたダイジェスト版なんかを作ってですね。それを小学生、中学生が読んで郷土の歴史を学習できるということ。それと研究者が、三浦の漁業の変遷、農業の変遷、というものを研究するときに、きちんとした市史がないと出来ないことがあるんです。ただし今の経済状況を見れば、そのきちんとした正史としての分厚い市史というのは、とてもどこの市町村だって今から始めることはできないわけです。それなのでもっと効率的に、とりあえず今は市民の皆さんが見やすいようなものを作るべきだと思います。

市長 じゃあ間違っていないですね。

市民 ただ、そのちゃんとした正史としての市史を作るときに、Tさんが昔なさったような作業、古文書を各家の倉庫から出して埃を払って袋詰めをしてカードを作って、「これは何の資料であるか」ということをやって、それを寄贈してもらうなり、一時的にお借りして、複写をするなりしてお返しをする、目録を作って御返しする、市のほうではデータベースを作って、どこの家にこの資料があるっていうことをきちんとデータ化するという作業は、常にしておかなければいけないことだと思います。それをしていないと、いざ経済が好転して市史ができるようになって、先生だけが集まって、物が無いということになる。それでは全く市史ができないという状況に陥ってしまうわけなんです。ですからやはりこれは並行して、市民の皆さんに見やすいものを作ると同時に、現在市の中にある古文書類をきちんとコツコツと継続して、単年度事業としてではなくて、集め続けていって整理し続けていくという作業が絶対に必要だと思います。それでどこに何があるかということを明らかにしていく。さらに文献を一つのところに集めていく。

市民 その文献を集めて置く場所というのはあるんですか。

市長 それは検討しなくてはいけない点です。湿度の問題や、保管具合などをコントロール

ールできる場所がないんです。いわゆる保管庫みたいなものがないものですから。これから行政計画で作っていく図書館という計画もあるんですが、そこに保管庫のようなものを作っていこうかという考えも持っているんです。ただまだ具体的ではありません。

市民 できれば郷土資料館といって、見ることもできて、本も読めたりできる場所があればいいんですけどね。

市長 例えば漁業の資料館が欲しいというご意見が三崎の港町にあるだろうし、白秋記念館は北原白秋さんの歴史を現在もまとめて保管していただいていますので、そのポイントポイントでは必要だというご要望はたくさんいただいています。保管する場所がないような状態からは脱皮しなくてはいけないという考えを持っています。文書の資料もそうですし、歴史的な絵画といったようなものを保管する場所がほしいというご要望もいただいています。図書館構想と合わせて取り組めないかなと考えています。
郷土史のようなものはTさん、結構色んなところに埋もれているものでしょうか。

市民 県の公文書館からも「どんなのあるか」と聞かれたことがあります。登記所の石の建物がありましたね。あそこの2階に2トントラックで山盛り2台分くらい三崎町役場と南下浦村役場の和紙の綴じた資料があって、県の方に「だいたいこの位の量ありそうですよ」と報告しました。その後、見に入ったら2階には昭和40年ころからの書類がたくさんあったけど、古文書は一点もありませんでした。今いる人たちはお寺や自治会のほうにあるんですが、手近なところだと菊名の方のものなんかは全部見せてもらって、「どれとどれ何点借用します」と借用書をちゃんと書いたりしています。

市長 それじゃあ市内の古い家の中とか探らないといけませんね。

市民 浜田勘太先生が集めていたものはみんな三浦市に寄付したっていう話は聞いたんですけど、そんなのどこにあるんですかね。

市民 それは文化財収蔵庫にありますね。

市長 ではすみません。話をまとめさせていただきます。
Yさんのお話は大変参考になったと思いますし、われわれが一般市民を意識した

場合は、『目で見ると三浦市史』のバージョンアップ、つまり今考えている方向でいいだろうと。ただ、研究者が調べるような、そういう場合に備えて、きちんとデータは蓄積していった方がいいというお話をいただきました。それは非常に参考になる話だと思います。それでやはり三浦市内で眠っている歴史の記録されているもの、写真、そういったものを、どう使えるかということは別として、掘り起こすということも必要かもしれませんね。それも一連の作業の中で取り組んでいった方がいいだろうということですね。それと、市民の皆さんの情報というものを、例えば高齢者の方のお話を伺ったりということも必要だろうということですね。(職員に対し) 筑波大学の大学院生が研究結果をくれたよね。あれは多分参考になるだろうし、そういうようなものもきちんと整理、保管がされていないと意味がないということですよ。整理、保管をしていくような環境を作っていかなければいけないということですね。

市民 今、ご年配の方からお話を聞くとおっしゃいましたが、それをやはり一番急がないといけないと思います。聞き取りという作業は、結局今80代の方から戦前のことがすでに聞けなくなってしまっています。急がなければドンドンおっかけてくるものですから、急いで年配の方から聞き取りを進めていくという作業は絶対に必要だと思います。あと古文書ですが、県の方で三浦市の文書について36件調べているんです。その目録があるはずなんです、その36件調べた文書が果たして今現在そのままの形で残っているのかどうかということをチェックしなければ。かつて調べたものが40年経って、存在するかどうかということ調べるのが、せつかくあるものですから、全く無いところから探し出すよりも、今すぐ始めるとしたら最良ではないかと思います。それがなくなっているかどうか。あるかどうかを調べるということ。それと、聞き取りを急ぐことというのが今すぐすべきことではないのかなと思います。

市民 『遠い日のふるさと』というのがあって、やめちゃいましたが、あれは予算の関係だったのでしょうか。例えば、関東大震災の津波の状況がどうかとか、マグロの問題とか、昔の遊びがどうだったとか、あれはすごい貴重だったなと今になって思うのですが、終わってしまったのは予算の関係でしょうか。

市民 個人的な手紙で、関東大震災の津波のときには潮が引いてしまって、三崎の人は城ヶ島に歩いていったとか、佐島の方にあわびを取りに行ったとか書いてあるんですね。そういう人の中には戻ってきた潮に巻き込まれて亡くなった人がいるって書いてある手紙を持ってきた人がいましたね。それから金田の役場の中に、南下浦は長い村だから役場をどこにするか決める

きのエピソードで、長いから真中あたりでということで、それで最初に金田のあの場所に南下浦村役場ができたということが書いてあるものがあったんですけどね。どこか行っちゃいましたね。

市長 (職員に対して)『遠い日のふるさと』については、経緯は分かるのか。

市民 あれは昔企画調整がやっていたよね。

市民 そうですね。

市民 あれは十何巻ありましたよね。

市民 私もかかわったんですけど、ああいうものは貴重ですよ。初声の図書館には全部ありますけど。

市民 関東大震災の日の天気がどうだったか、天気を調べているんですが、お天気については全然書かれていないよね。

市長 いずれにしても市史を編さんすることは、大変な労力が必要かと思います。これから作業を進めていきますが、今日ご指摘の皆さんをはじめ、色んなご意見をいただければありがたいと思います。ぜひ(その過程を)見ていただければ、大変ありがたいと思います。いただいた意見を参考に取り組みさせていただきたいと思います。今日はありがとうございました。大変参考になりました。

※ 公表については了承を得ております。